

EBPMについて

(Evidence-Based Policy Making)

◆ データ分析結果等のエビデンスを参考にした取組について

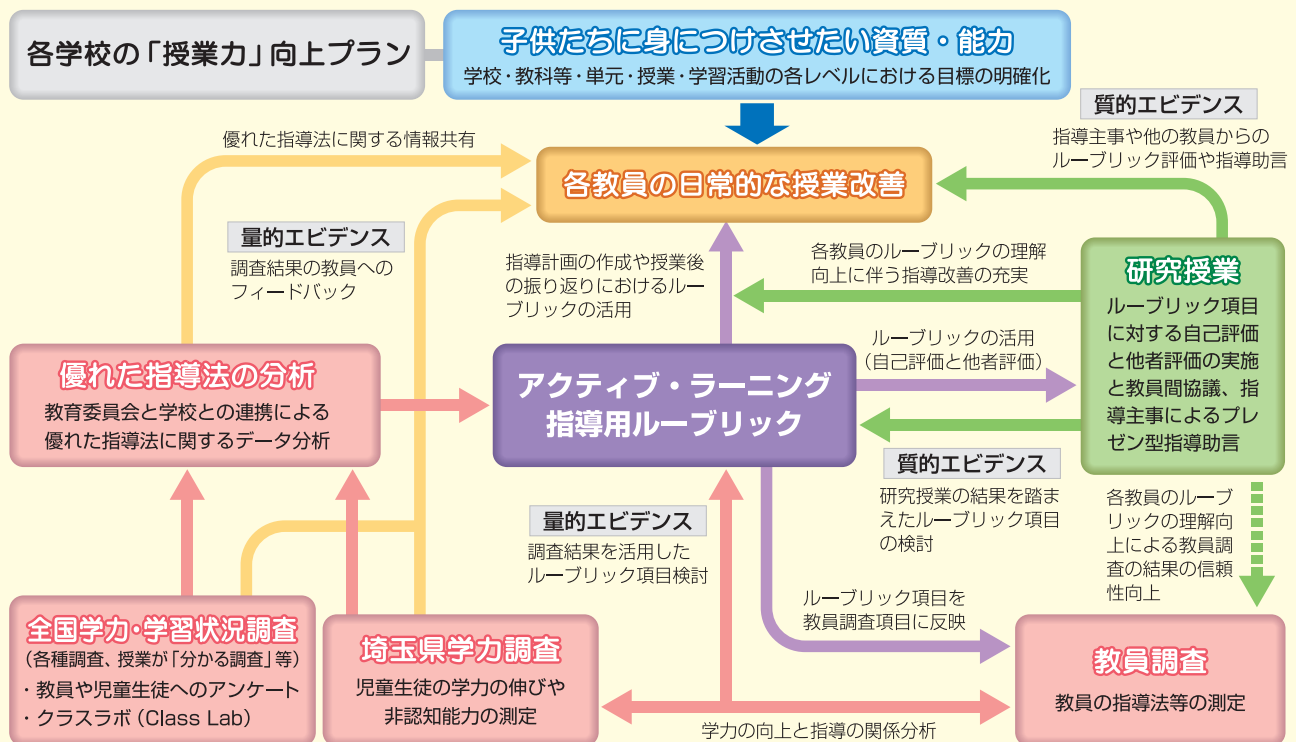
現在、国や各自治体において、客観的な根拠（エビデンス）を交えた意思決定を行うことが推進されています。本当に効果のある取組が何かを検討するため、意思決定の説明責任を果たすため、取組の効果検証・改善を進めるため、など種々の狙いがある背景にあります。より質の高い教育を子供達に提供していくために、戸田市教育委員会においても「学校の現状や課題」「教員や児童生徒の価値観や経験」に加えて、エビデンスも活用しながら様々な取組を進めています。

◆ 代表的な取組について

(1) 戸田型授業改善モデル

各種テスト・調査の結果を活用して戸田型授業改善モデルを作成しています。このモデルは、教員調査結果や研究協議内容に基づいて作成したアクティブ・ラーニング指導用ルーブリックをもとに、日々の授業改善を進めようとするもので、授業改善に関する複数の取組を結びつけていることに特色があります。例えば、学力調査結果の分析によって子供達の学力を伸ばしている教員を選出し、その教員が授業で重視しているルーブリック上の要点をヒアリングしてまとめ、指導規準の重点項目として学校現場にフィードバックしています。

〈戸田型授業改善モデルのイメージ〉



(2) 各種テスト・調査結果と学力の相関分析

本市で行っている各種テスト・調査結果と、埼玉県学力・学習状況調査で測定した学力の関係を分析しています。様々な観点から授業改善のヒントを探り、教員にフィードバックできる知見の獲得を目指します。現在、分析に必要なデータの取得や整理を進めており、徐々に分析の幅を広げています。代表的なものとして、国立情報学研究所・東京理科大学との共同研究により進めている、リーディングスキル（RS）と学力の関係分析が挙げられます（4頁参照）。